



昨年九月、都留市に來たばかりの時、友達に誘われカラオケを楽しんだ。その時「北国の春」を歌った。歌詞の中に「帰るかな」というところがあり、「来たばかりなのに帰ろうだなんて」と笑われたのを思い出します。いよいよ帰国の日が近づいて來ました。なんとなく寂しく、そして名残惜しくも思われる今日このごろです。

山々に囲まれたこの町では、季節の「うつろい」がゆるやかに感じられます。豊かな自然があり、日々変わる木々の美しさ・色も姿も様々に開花する花ばながあります。そして、耳に聞こえる小川のせせらぎ・鶯の鳴き声・蛙の合唱があります。それは、私が意識せずに過ごしてきた子どものころの、ゆつたりとした時の流れへのタイムスリップが感じられました。

こうした恵まれた自然環境の中にある都留文科大學は、一九五三年四月山梨県立臨時教員養成所として発足以来、歴代学長をはじめ諸先生方の教育に対する情熱と教育尊重の氣風を背景に、更に地元市民の支援によって、大學院を持つ公立四年制大學へと發展して來ました。そして、現在では全国各地から集まった三千人の學生を有する名門大學に成長しています。

さようなら都留



李 誼さん

その上、図書館の膨大な数の蔵書や雑誌に加え、コンピューターによる文献検索システム・インターネットおよび電子メールを利用した近代的な通信手段による外部からの迅速な情報収集などの設備を備えた素晴らしい大學です。このような大學に一年間留学することができ、本当に光榮に思っています。

また、私にとって忘れられないものは、やはり桂川が育んだ郷土文化といつでも親しみを込めて優しく私たちを迎えてくださった都留市の大勢の人たちのことです。九月一日の八朔祭をはじめ、十月十日の市民運動会、十一月の'97フェスティバル・子どもまつりなど一年を通して地元の様々な活動に参加させてもらいました。また、ホームステイにより市民の方々の友好交流を深めることもできました。こうした一連の行事をきっかけに日本の伝統文化の精髓とも言える「茶道」と「華道」にも触れることができ、すっかり魅了されてしまいました。「茶道教室」「華道教室」は、私の留学生活に多様な色を添えてくれました。それと同時に多くの友達と出会うきっかけにもなりました。

もう一つ忘れられないことは、大学の推薦により「国際ソロプチミスト山梨・芙蓉」という女性に与えられる賞の激励賞を受賞し、いろいろな賞品をいただいたことです。思いもよらなかったことだけに喜びもひとしおでした。

この一年間の留学生活は私にとってかけがえのない貴重な体験とたくさんさんの生涯忘れることのできない思い出をつくってくれました。本当にありがとうございます。「さようなら都留」。またいつかお会いできる日を楽しみにしています。

「光陰矢の如し」という諺がありますが、日本へ來てからすでに一年が経ちました。この間にいろいろな感銘を受けました。

都留市は富士山麓に位置し、豊かな緑とふんだんに湧き出る美しい水とともに歴史を刻んできた城下町です。秋には燃えるような紅葉の美しさが目に映り、心から嘆息するばかりです。

日本に來たとき、私は母国で一年しか日本語の勉強をしていなかったのに、日本語のレベルがとても低い状態でした。だから、急に全然違う言語環境・生活環境の中に入ると、言葉も分からず、友達もなく、時々寂しく、悲しくなりました。いつそ日本を離れ国へ帰ろうかと思いつき、何度も涙が出てきました。でもせっかく日本へ留学ができたのに帰ろうとしたら何にもならないではありませんか。他人にも自分にも負けたくない性格の私は歯を食いしばり頑張りました。そして、勉強をしていくうちに日本語も少しずつ身につけ、楽しくなってきました。環境にも慣れ、学生たちとも友達になり、喜びや悲しみを伝えたり相談したりすることができるようになりました。そのおかげで日本語だけでなく、生活面などでもたくさん学ぶことができました。直接母語ではない日本語だけで学ぶことは、私にとって、一つ一つ足場をこしらえ、それを土台に一步一步踏みしめながら進めていく作業であり、忍耐と集中力を要する作業だと思っています。だから、決して出来合いの言葉によりかかるとはせず、私の中の言葉にひきあわせながら注意深く学び進めねばなりません。確かにそこには母語を使うときのような安らかさはありません。しかし、私は二つの言葉

人生のスパイス～私の中の日本



沈 蓉さん

葉の世界を行き来しながら、もう一人の自身を見つけたし、それまで知らなかった世界を経験することができました。

都留と故郷とは、人々の生活習慣も、考え方も違うので、戸惑うことが多く四苦八苦しました。しかし、市役所の方々によくしていただいたり、事務の方々にいつも親切に面倒を見ていただいたり、心が感謝しています。それから、地元地域文化の豊かさと市民の物事に対する情熱に心を動かされました。例えば、買い物などで分からないことがあったとき、助けていただきました。ここ都留市では中国人と日本人の間の垣根のようなものがあまりなく、皆さん親切で私たちに対して友好的に接してくださいました。

私は日本に來たことを誇りに思います。歩んで來た道の中で、日本というスパイスを知りました。私はもうそれなしの生活が考えられません。しかし、都留での生活は終わってしまいました。

中国へ帰ってしまいますが、これからも日本語の勉強を続けようと思っています。そして、中国と日本の友好を大切にして、今後は仕事の中でさらに日中友好を深め、留学の成果をよりよく活かせるように努力したいと思っています。

皆さんのおかげで、今では日本語も上達し、実りある留学となりました。ここに感謝の念をささげたいと思います。

遠く離れてしまいましたが、これが永遠の別れではなく、ここから新しい友情が続いていくものと信じています。

さようなら 都留、さようなら 日本。